バセドウ病になったら

抗甲状腺薬（メルカゾール錠・プロパジール錠）を服用される方へ

監修
群馬大学大学院医学系研究科
内分泌代謝内科学
教授　山田 正信 先生

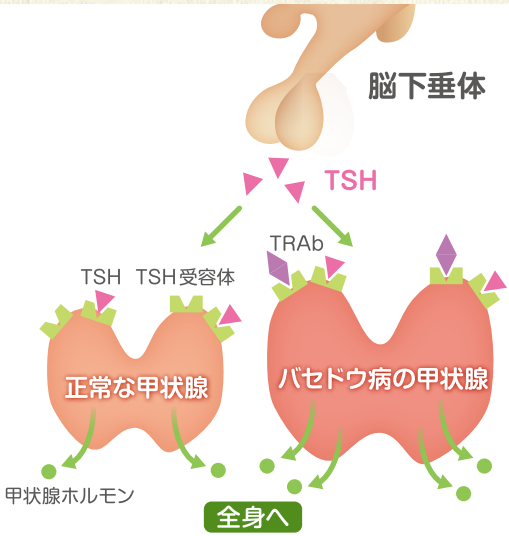
バセドウ病ってどんな病気？

バセドウ病は、甲状腺ホルモンが作られすぎる病気です。
甲状腺で作られる甲状腺ホルモンは、代謝に関わる大切なホルモンですが、多すぎると様々な臓器に負担がかかり、頻脈や高血糖、骨粗鬆症などの原因となることがあります。

甲状腺はのどぼとけの下のあたりにあるので、バセドウ病では首が腫れることがあります。

どうして甲状腺ホルモンが作られすぎるの？

通常、甲状腺ホルモンは**甲状腺刺激ホルモン（TSH）**により甲状腺が刺激され、必要な分だけ作られます。
ところが、バセドウ病の人はTSHと同じように甲状腺を刺激する**自己抗体（TRAbなど）**が原因で、必要以上に甲状腺ホルモンが作られてしまいます。



甲状腺ホルモンが作られすぎるバセドウ病でみられる主な症状

体重減少、首の腫れ、動悸、息切れ、暑がり、多汗、かゆみ、いらいら、集中力の低下、手指のふるえ、食欲が増す、生理不順、眼球突出などがみられることがあります。

バセドウ病のときに行う血液検査

TSH（甲状腺刺激ホルモン）

脳下垂体で作られ、甲状腺を刺激して甲状腺ホルモンを作るよう促すホルモンです。
体内の甲状腺ホルモンが多くなると作られなくなるため、バセドウ病では低下します。

FT_4、FT_3（遊離甲状腺ホルモン）

甲状腺で作られ、代謝に関わるホルモンです。バセドウ病では上昇します。

TRAb（抗TSH受容体抗体）

TSHのように甲状腺を刺激して甲状腺ホルモンを作るよう促す自己抗体です。
バセドウ病では陽性になります。

薬物療法は、バセドウ病と診断された場合に初めに行われる治療法のひとつで、**抗甲状腺薬**を服用

抗甲状腺薬 服用・

抗甲状腺薬服用中の注意事項（医師の指示通り通院しましょう）

軽度の副作用として**湿疹、かゆみ、肝障害**などが、
重篤な副作用として無顆粒球症※1、**重症肝障害、ANCA関連血管炎症候群**※2が
あらわれることがありますので、**特に服用開始から約2～3ヵ月間**は定期的な検査が必要です。

※1：血液中の白血球成分のうち顆粒球（特に好中球）が減少することで、細菌に感染しやすくなります。
※2：腎臓・肺などの細い血管に炎症が起こることがあります。

要注意期間　下記の服用・通院スケジュールは一例です。

通常は2～3週間ごとに
甲状腺機能を検査します。

**服用中の検査と
抗甲状腺薬の減量**

症状や検査値が改善してきたら、
徐々に抗甲状腺薬を減らします。

甲状腺ホルモンが正常になったら、薬を減らしながら**4～6週間ごと**に通院します。その後は**2～3ヵ月ごと**に通院して甲状腺機能を確認しながら、薬を十分減らして服用を続けます。

：薬物療法

します。医師の指示通り服用することが大切です。

通院スケジュール

下記の症状に特に気を付けてください。

38.0度以上の高熱、

のどの痛み、倦怠感、血尿、喀血 など

これらの症状がみられた場合、
すみやかに医療機関を受診してください。
その際は必ず「抗甲状腺薬を飲んでいること」を
伝えてください。

抗甲状腺薬の休薬とその後の検査

薬を減らしたまま6ヵ月以上服用を続けても甲状腺機能が正常な場合は、休薬（服用をやめる）を検討します。
ただし、休薬後も再発する可能性があるので、定期的な検査が必要です。

服用中止から6ヵ月は**2～3ヵ月ごと**に通院し、その後は徐々に間隔を延ばしますが、少なくとも**1年に1回**検査します。

その他の治療法

1年半～2年以上薬物療法を行ってもよくならないときなどは、**^{131}I内用療法や手術療法への変更** を検討します。

^{131}I内用療法

- 甲状腺にはヨウ素を取り込む性質があることから、放射性ヨウ素（^{131}I）の入ったカプセルを飲んで、甲状腺の細胞を壊す治療法です。
- 甲状腺の細胞が壊れるのにしばらく時間がかかります。

手術療法

- 甲状腺を切除する手術（全摘出が主流）です。
- 手術後は甲状腺ホルモンが作られなくなり、甲状腺機能低下症になるため、甲状腺ホルモン剤を服用する必要があります。

それぞれの治療法の利点・欠点

	薬物療法	^{131}I内用療法	手術療法
対象とならない人	• その薬で副作用があらわれた人	• 18歳未満（慎重投与） • 妊婦・授乳婦	• 手術に耐えられない人
利点	• 全ての病院・診療所で行える • 日常生活を送りながら治療ができる	• カプセルを1回飲むだけ • 再発しにくい • 副作用が少ない	• 治療効果が早期に確実に得られる • 再発が少ない
欠点	• 再発が多い • 長期間服薬が必要 • 副作用があらわれる可能性がある	• 甲状腺機能低下症が起こる可能性がある • 行える病院が限られる	• 入院が必要 • 手術の傷が残る • 手術に伴う合併症の可能性がある

バセドウ病と妊娠／喫煙について

妊娠

- 甲状腺機能が高まっている状態での妊娠は危険ですが、治療で甲状腺機能が正常に保たれていてTRAbが低ければ、妊娠・出産することが可能です。
- ただし、妊娠初期の抗甲状腺薬の服用は、胎児に悪影響を及ぼす可能性があるため、妊娠は避けてください。
- 医師とよく相談し、妊娠は計画的にしてください。
- 妊娠に気付いたら、できるだけすみやかに医師に相談してください。

喫煙

- 喫煙は眼球突出などの目の症状を悪化させる可能性があります。
- バセドウ病になった場合には禁煙することが強く勧められています。

日常生活で注意すること

バセドウ病のときは**無理をせず**、治療で体を落ち着かせてから、その後徐々に慣らすことが大切です。

食事

- 適度の海藻類は問題ありません。
- バランスの良い食事を心がけ、水分をしっかりとりましょう。
- 過食になりやすいので食べ過ぎに注意しましょう。

運動

- 甲状腺ホルモンの高いときは代謝が亢進していて、心臓などに負荷がかかっている状態ですので、安静にしましょう。
- 治療により甲状腺機能が落ち着いてきたらストレッチや軽めの運動から始めて、徐々に体を慣らしましょう。
- 筋力が落ちていることもありますので、少しずつ取り戻すようにしましょう。

市販薬やサプリメントの中には、甲状腺に悪影響を及ぼすものもあります。服用する際は医師または薬剤師に「抗甲状腺薬を飲んでいること」を伝え、相談してください。

医療機関名

あすか製薬株式会社

MER106

2021年2月作成